

■村岡典嗣 名著「本居宣長」で日本思想史学の基礎を確立，国立大学では他に例がない"日本思想史講座"を拓いた。

むらおかつねつぐ

秩父事件・1884 = 東京浅草で，旧丹波篠山藩の江戸詰藩士の長男に生まれる。

帝国憲法発布1889 = 5歳：

郡司千島探検1893 = 9歳：

日清戦争始・1894 = 10歳：

府立開成中学時代から短歌を嗜み，

田中正造直訴1901 = 17歳：_東京専門学校(早稲田大学)文学部哲学科に入学，

教科書疑獄・1902 = 18歳：_波多野精一の人格・学識に傾倒して近代哲学に没入する一方，姻戚の佐佐木信綱門下の新進歌人となる。

日露戦争終・1905 = 21歳：

満鉄発足・1906 = 22歳：_卒業，独逸新教神学校に入学して英独語を学ぶ。この間も，波多野とサバティエ「宗教哲学概論」を共訳するなど，その影響下にあり，

アラビ 創刊・1908 = 24歳：_卒業，横浜ドイツヤパンポスト社に入社，主として論説の翻訳に従事しながら，本居宣長研究に打込み，

大逆事件判決1911 = 27歳：同社が解散となった年，*和洋の教養を凝集した理解と洞察に満ちた画期的名著「本居宣長」を刊行，独創的立場を築くとともに，大正文化史学の先駆を示し，

明治天皇没・1912 = 28歳：

大正政変・1913 = 29歳：ウィンデルバンド「近世哲学史」を翻訳刊行，

21ヶ条要求・1915 = 31歳：早稲田大学講師となり，陸軍士官学校の講師も兼務，

民本主義・1916 = 32歳：早大の英語担当助教授となる。

「本居宣長」が広く学界で評価され，波多野の同僚内田銀蔵の推薦で，

べ 財仁条約・1919 = 35歳：_広島高等師範学校講師に迎えられ，

大暴落・1920 = 36歳：_教授となり，日本の思想史を中心に，幅広く綿密な講義。「平田篤胤の神学に於ける耶蘇教の影響」，

原敬首相暗殺1921 = 37歳：

水平社結成・1922 = 38歳：_東北帝国大学教授に推され，文部省在外研究員として英・独・仏に留学して，

護憲三派圧勝1924 = 40歳：*帰国後，仙台に移住し，国立大学では他に例がない"日本思想史講座"の開祖となる。

共産党事件・1928 = 44歳：_「増訂本居宣長」を岩波書店から刊行。

世界恐慌・1929 = 45歳：

海軍軍縮条約1930 = 46歳：*「日本思想史研究」で，今日に至る日本思想史学の基礎を確立した。

満州事変・1931 = 47歳：_<満州事変>後，急速に強まった国粹的・軍国的風潮に対して，厳密な学問の名において批判をやめず，みずから優れた業績を示し多くの門下を育成し，東大法学部・文学部，東京文理科大はじめ京大・九大などでの講義もしばしばで，強い刺戟を受けた多くの学者が生まれた。

帝人疑獄事件1934 = 50歳：「日本思想史の研究方法について」後，「うひ山ふみ」「玉勝間」「玉くしげ」から，

二二六事件・1936 = 52歳：「直毘霊」等の校訂本を刊行して，徹底した宣長研究の深化を続け，

日中戦争始・1937 = 53歳：_東京文理科大学の兼任教授となり，日本思想史学者としての地位を不動のものとするに至った。

総動員+健保 1938 = 54歳：「日本文化史概説」，

第二次大戦始1939 = 55歳：「素行・宣長」，

大政翼賛会・1940 = 56歳：「増訂日本思想史研究」なども発表しながら，

日米開戦・1941 = 57歳：

近代の超克・1942 = 58歳：_「本居宣長全集」の刊行開始に至るが，

敗戦・1945 = 61歳：<敗戦>後，

新憲法公布・1946 = 62歳：_東北帝大・東京文理科大を定年退官翌月，戦時中の食糧難がもとで，仙台で没した。